

既知の不具合

11.00版 [2026/05/19作成]

平素、弊社製品をご利用くださり、ありがとうございます。

現時点で弊社が把握している各機種の不具合をお知らせいたします。

【WATCH BOOT nino】 型番：RPC-M2CS 最新FW：1.00E.220316

「サーバー連携機能」「ガードタイム方式」対応特殊FW：4.30A.250128

《1.00Eおよび4.20A,4.30Aで未修正の既知の不具合【1.00D以前のFWではこの不具合は生じません】》

- ・NTPサーバー同期間隔を3580(×10分)以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合。

《特殊FW:4.30Aで既に修正された不具合》

- ・HTTPタイムアウト時間の初期化不具合。

《特殊FW:1.30A,4.00Aでは既に修正された不具合【1.00Eでのみ不具合は生じます】》

- ・NTPサーバーの設定欄に間違ったIPアドレスが指定されている状態で、本体の電源投入、もしくは[一度も正しく時刻取得できていない状態で]CPUリセットが行われると、ログ記録が開始されず、[Ping監視が設定してある場合]Ping監視が正常に動作せずに該当OUTLET LEDが点滅状態のままになる不具合。

【NTPサーバーに誤った「ネームアドレス」が指定された場合、またNTPサーバー設定欄が空欄の場合、上記の不具合は起こりません。】

【正しいNTPサーバーを設定して一度時刻取得ができた後、誤ったIPアドレスに指定し直してCPUリセットしても、この不具合は起こりません。】

《1.00Dで既に修正された不具合》

- ・「設置場所」の末尾に、SHIFT-JISで下位バイトが0x40の文字(例:機,院,邸,宗,①,' '[全角スペース]など)を入れると文字化けする不具合

《1.00Eで既に修正された不具合》

- ・リブーター側に設定するメールサーバーによっては、メール本文がヘッダー部分に入ってしまう不具合。
- ・メール制御結果通知メールがログ通知メールと同時に送信される時、(制御に使用されたメールアドレスではなく)「アドレス1」に設定されているメールアドレスに結果通知メールが届く不具合。
- ・NTPサーバーにホスト名で設定して運用している時、名前解決の際に複数のIPアドレスが知らされた場合、先頭のIPアドレスと紐付けされる。そこで、リブーターと相性が悪く、時刻同期が行えないIPアドレスと紐付けされてしまった場合、「NTPサーバー接続エラー」とログ表示され、またその後も時刻同期できない状態が持続する。(ログ表示は初回のみ。この状態が続く限り、NTP関連のログはその後出てこない。)

【WATCH BOOT Light】 型番：RPC-M5CS 最新FW：1.00F.220720

「サーバー連携機能」「ガードタイム方式」対応特殊FW：4.30A.250128

《1.00F, 4.20A,4.30Aで未修正の既知の不具合》

- ・カンマ(,)が含まれているシャットダウンスクリプトをロードしてCPUリセットすると、カンマ以降のスクリプトが消える不具合。

【暫定的措置として、シャットダウンスクリプトを作成する際、カンマを使わない記述にしてください。】

- ・NTPサーバー同期間隔を3580(×10分)以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合。
(1.00D以前のFWではこの不具合は生じません)

《特殊FW:4.30Aで既に修正された不具合》

- ・HTTPタイムアウト時間の初期化不具合。

《特殊FW:1.30A,4.00Aでは既に修正された不具合 [1.00E,Fでのみ不具合は生じます] 》

- ・NTPサーバーの設定欄に間違ったIPアドレスが指定されている状態で、本体の電源投入、もしくは[一度も正しく時刻取得できていない状態で]CPUリセットが行われると、ログ記録が開始されず、[温度センサー有効の場合]温度測定が実行されず、[Ping監視が設定してある場合]Ping監視が正常に動作せずに該当OUTLET LEDが点滅状態のままになる不具合。

【NTPサーバーに誤った「ネームアドレス」が指定された場合、またNTPサーバー設定欄が空欄の場合、上記の不具合は起こりません。】

【正しいNTPサーバーを設定して一度時刻取得ができた後、誤ったIPアドレスに指定し直してCPUリセットしても、この不具合は起こりません。】

《1.00Dで既に修正された不具合》

- ・「設置場所」の末尾に、SHIFT-JISで下位バイトが0x40の文字(例:機,院,邸,宗,①,' '[全角スペース]など)を入れると文字化けする不具合

《1.00Eで既に修正された不具合》

- ・温度が-0.01℃~-0.99℃のとき、表示される数値がマイナスではなくプラスになる不具合。
- ・温度監視の通知メールでマイナスの温度を表示する際、「-x.xx℃」のように小数点の右横にも「-」が表示される不具合。
- ・ハートビート監視の動作、温度監視の条件、これら両方を同じアウトレットに対して設定し、ハートビート監視有効化後、「温度センサー」また「温度監視」を有効化した時、温度監視優先にならないことがある不具合。
- ・リポーター側に設定するメールサーバーによっては、メール本文がヘッダー部分に入ってしまう不具合。
- ・メール制御結果通知メールがログ通知メールと同時に送信される時、(制御に使用されたメールアドレスではなく)「アドレス1」に設定されているメールアドレスに結果通知メールが届く不具合。
- ・NTPサーバーにホスト名で設定して運用している時、名前解決の際に複数のIPアドレスが知らされた場合、先頭のIPアドレスと紐付けされる。そこで、リポーターと相性が悪く、時刻同期が行えないIPアドレスと紐付けされてしまった場合、「NTPサーバー接続エラー」とログ表示され、またその後も時刻同期できない状態が持続する。(ログ表示は初回のみ。この状態が続く限り、NTP関連のログはその後出てこない。)

《1.00Fで既に修正された不具合》[1.00D以前のFWでは起きません]

- ・シャットダウンスクリプトの設定において、各アウトレットの「パスワード」(スクリプト実行先にログインするためのパスワード)がCPUリセットをかけた後や本装置の主電源をOFF→ONした後に変更されてしまう不具合。[具体的には《アウトレット1:aaa アウトレット2:[設定なし] アウトレット3:bbb アウトレット4:[設定なし]》としていた場合、CPUリセットをかけると《アウトレット1:aaa,bbb, アウトレット2:[設定なし] アウトレット3:[設定なし] アウトレット4:[設定なし]》という設定になってしまう。] (暫定的な対応策:CPUリセットや主電源OFF→ON後に、改めてシャットダウンスクリプトの「パスワード」を設定し直し[適用]して、ご使用ください。)
- ・SAVEコマンド実行時、シャットダウンスクリプトの内容が表示されない不具合。

《4.20A,4.30Aで未修正の既知の不具合》

- ・カンマ (,) が含まれているシャットダウンスクリプトをロードしてCPUリセットすると、カンマ以降のスクリプトが消える不具合。
【暫定的措置として、シャットダウンスクリプトを作成する際、カンマを使わない記述にしてください。】
- ・NTPサーバー同期間隔を3580(×10分)以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合。
(1.20A以前のFWではこの不具合は生じません)

《4.30Aで既に修正された不具合》

- ・HTTPタイムアウト時間の初期化不具合。

《1.30A,4.00Aで既に修正された不具合》

- ・「設置場所」の末尾に、SHIFT-JISで下位バイトが0x40の文字(例:機,院,邸,宗,①,' '[全角スペース]など)を入れると文字化けする不具合
- ・温度が-0.01℃~-0.99℃のとき、表示される数値がマイナスではなくプラスになる不具合。
- ・温度監視の通知メールでマイナスの温度を表示する際、「-x.xx℃」のように小数点の右横にも「-」が表示される不具合。
- ・手動スイッチのコマンド設定[manuSwCommand]をSNMPでSET/GETできない不具合。
- ・TELNETにて変数「debTcpInactiveTimer」にマイナス数値が設定できてしまう不具合。
- ・ハートビート監視の動作、温度監視の条件、これら両方を同じアウトレットに対して設定し、ハートビート監視有効化後、「温度センサー」また「温度監視」を有効化した時、温度監視優先にならないことがある不具合。
- ・「Realm名」に一定の文字数を超過して設定するとCPUリセットを繰り返してしまう不具合。(暫定対策として、「Realm名」には「半角英数20字以内」で設定していただく)
- ・リブーター側に設定するメールサーバーによっては、メール本文がヘッダー部分に入ってしまう不具合。
- ・メール制御結果通知メールがログ通知メールと同時に送信される時、(制御に使用されたメールアドレスではなく)「アドレス1」に設定されているメールアドレスに結果通知メールが届く不具合。
- ・NTPサーバーにホスト名で設定して運用している時、名前解決の際に複数のIPアドレスが知らされた場合、先頭のIPアドレスと紐付けされる。そこで、リブーターと相性が悪く、時刻同期が行えないIPアドレスと紐付けされてしまった場合、「NTPサーバー接続エラー」とログ表示され、またその後も時刻同期できない状態が持続する。(ログ表示は初回のみ。この状態が続く限り、NTP関連のログはその後出てこない。)

《4.20A,4.30Aで未修正の既知の不具合》

- ・「PoE機器ポート監視」にて「送信」回数を21回以上に設定し「無効」回数が21回を超えた時、「詳細状態表示」-「PoE詳細情報」の「PoE機器ポート監視」にて「無効」欄にマイナスの数値が表示される不具合。(暫定対策としては「送信」回数は20回以下でご使用ください。)
- ・NTPサーバー同期間隔を3580 以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合。
(1.20A以前のFWではこの不具合は生じません)

《4.30Aで既に修正された不具合》

- ・カンマ (,) が含まれているPoE制御スクリプトをロードしてCPUリセットすると、カンマ以降のスクリプトが消える不具合。
- ・HTTPタイムアウト時間の初期化不具合。

《1.30A,4.00Aで既に修正された不具合》

- ・「設置場所」の末尾に、SHIFT-JISで下位バイトが0x40の文字(例:機,院,邸,宗,①,' '[全角スペース]など)を入れると文字化けする不具合
- ・TELNETにて変数「debTcpInactiveTimer」にマイナス数値が設定できてしまう不具合。
- ・リブーター側に設定するメールサーバーによっては、メール本文がヘッダー部分に入ってしまう不具合。
- ・メール制御結果通知メールがログ通知メールと同時に送信される時、（制御に使用されたメールアドレスではなく）「アドレス1」に設定されているメールアドレスに結果通知メールが届く不具合。
- ・「Realm名」に一定の文字数を超過して設定するとCPUリセットを繰り返してしまう不具合。（暫定対策として、「Realm名」には「半角英数20字以内」で設定していただく）
- ・NTPサーバーにホスト名で設定して運用している時、名前解決の際に複数のIPアドレスが知らされた場合、先頭のIPアドレスと紐付けされる。そこで、リブーターと相性が悪く、時刻同期が行えないIPアドレスと紐付けされてしまった場合、「NTPサーバー接続エラー」とログ表示され、またその後も時刻同期できない状態が持続する。（ログ表示は初回のみ。この状態が続く限り、NTP関連のログはその後出てこない。）

【SIGNAGE REBOOTER】 型番：RPC-M4HSi 最新FW：4.30A.250128

《4.20A,4.30Aで未修正の既知の不具合》

- ・カンマ (,) が含まれているシャットダウンスクリプトをロードしてCPUリセットすると、カンマ以降のスクリプトが消える不具合。
【暫定的措置として、シャットダウンスクリプトを作成する際、カンマを使わない記述にしてください。】
- ・NTPサーバー同期間隔を3580(×10分)以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合。
(1.00AのFWではこの不具合は生じません)

《4.30Aで既に修正された不具合》

- ・HTTPタイムアウト時間の初期化不具合。

《4.00Aで既に修正された不具合》

- ・ハートビート監視にて動作「Logのみ」設定時、「詳細状態表示」の「ハートビート状態」にその設定が表示されない不具合を修正。

《1.10Aで既に修正された不具合》

- ・リブーター側に設定するメールサーバーによっては、メール本文がヘッダー部分に入ってしまう不具合。
- ・メール制御結果通知メールがログ通知メールと同時に送信される時、（制御に使用されたメールアドレスではなく）「アドレス1」に設定されているメールアドレスに結果通知メールが届く不具合。
- ・NTPサーバーにホスト名で設定して運用している時、名前解決の際に複数のIPアドレスが知らされた場合、先頭のIPアドレスと紐付けされる。そこで、リブーターと相性が悪く、時刻同期が行えないIPアドレスと紐付けされてしまった場合、「NTPサーバー接続エラー」とログ表示され、またその後も時刻同期できない状態が持続する。（ログ表示は初回のみ。この状態が続く限り、NTP関連のログはその後出てこない。）
- ・SNMPのTRAP送信有効時、温度監視による電源制御発生時には「schedule(2)」と表示され、またスケジュールによる電源制御発生時には「temperature(3)」と表示されてしまう不具合。

【TIME BOOT mini】 型番：RSC-MT4HS 最新FW：4.30A.250204

《4.20A, 4.30Aで未修正の既知の不具合》

- ・カンマ (,) が含まれているシャットダウンスクリプトをロードしてCPUリセットすると、カンマ以降のスクリプトが消える不具合。
【暫定的措置として、シャットダウンスクリプトを作成する際、カンマを使わない記述にしてください。】
- ・NTPサーバー同期間隔を3580(×10分)以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合。
(1.10A/1.10S以前のFWではこの不具合は生じません)
- ・WindowsPCに対してSSHシャットダウンを実行する場合、Windows OSのバージョンアップによってOpenSSHに関するセキュリティ強化がなされたためにシャットダウンが実行されない不具合。(暫定対策として、Windows側の「sshd_config」ファイルを管理者権限で編集し、次の2行を追記することで回避できます。「HostkeyAlgorithms +ssh-rsa」「Macshmac-sha1」)
- ・イベントログが1000件を超えた状態で「データログスタート」が発生した場合 (ColdStart後やWarmStart後など)、CLIにてlogコマンドを実行すると、上記の「データログスタート」以降のログしか表示されない不具合。(WEB GUIの「イベントログ」では、それ以前も含めて1000件分のログを確認できます。)

《4.30Aで既に修正された不具合》

- ・HTTPタイムアウト時間の初期化不具合。

《4.00Aで既に修正された不具合》

- ・NTPサーバーにホスト名で設定して運用している時、名前解決の際に複数のIPアドレスが知らされた場合、先頭のIPアドレスと紐付けされる。そこで、リブーターと相性が悪く、時刻同期が行えないIPアドレスと紐付けされてしまった場合、「NTPサーバー接続エラー」とログ表示され、またその後も時刻同期できない状態が持続する。(ログ表示は初回のみ。この状態が続く限り、NTP関連のログはその後出てこない。)
- ・SNMPのTRAP送信有効時、温度監視による電源制御発生時には「schedule(2)」と表示され、またスケジュールによる電源制御発生時には「temperature(3)」と表示されてしまう不具合。
- ・本機に電源投入後、一度もWarm Start[本体RESETボタンを押す、またはWEB画面で「CPUリセット」を実行する]をかけない状態で、SSHシャットダウンを実行し、その実行中にWEBブラウザで画面更新などを行うことでWarm Startが発生した場合、全アウトレットの電源状態がOFFになってしまう。

《SSHシャットダウン対応版FW : 1.10Sで既に修正された不具合》

- ・SSHシャットダウン中にWEB画面の自動更新が発生すると、WEB画面の一部が表示されず自動的に回復もできないため、最新の電源状態などが確認できない状態になる。
- ・SSHシャットダウン中にWEB画面のボタンをクリックするなど操作を行うと、Warm Startが発生することがある。
- ・SSHシャットダウン中にWarm Startが発生した場合、その発生タイミングによっては対象PCがシャットダウンされていないにもかかわらず、該当のアウトレットの電源状態がOFFになってしまうことがある。

《1.10Aで既に修正された不具合》

- ・温度が-0.01℃~-0.99℃のとき、表示される数値がマイナスではなくプラスになる不具合。
- ・温度監視の通知メールでマイナスの温度を表示する際、「-x.-xx℃」のように小数点の右横にも「-」が表示される不具合。
- ・ハートビート監視の動作、温度監視の条件、これら両方を同じアウトレットに対して設定し、ハートビート監視有効化後、「温度センサー」また「温度監視」を有効化した時、温度監視優先にならないことがある不具合。
- ・メール制御結果通知メールがログ通知メールと同時に送信される時、(制御に使用されたメールアドレスではなく)「アドレス1」に設定されているメールアドレスに結果通知メールが届く不具合。
- ・「Realm名」に一定の文字数を超過して設定するとCPUリセットを繰り返してしまう不具合。(「Realm名」に不具合を引き起こしかねない文字数を設定できないように修正。)
- ・「PCのER信号との連携」(WEB上の項目にはない)を「有効」にした状態で接点入力ONになっていると、UPS連動を有効にしても停電信号を受けてのアウトレットOFFが機能しない不具合。【→「PCのER信号との連携」を有効化できないように修正。】

《1.00Cで既に修正された不具合》

- ・HTTP認証None時にダイレクトWEBコマンドが実行できない不具合
- ・SSHにおいてadmin権限, supervisor権限に同一のIDが設定できてしまう不具合
- ・「ネットワーク設定-メール設定」において「再接続時間」の単位, ×(分)→○(秒)

【TIME BOOT】

型番 : RSC-MT8FS

最新FW : 4.30A.250204

《4.20A,4.30Aで未修正の既知の不具合》

- ・カンマ (,) が含まれているシャットダウンスクリプトをロードしてCPUリセットすると、カンマ以降のスクリプトが消える不具合。
【暫定的措置として、シャットダウンスクリプトを作成する際、カンマを使わない記述にしてください。】
- ・NTPサーバー同期間隔を3580(×10分)以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合。
(1.00E/1.01SのFWではこの不具合は生じません)
- ・WindowsPCに対してSSHシャットダウンを実行する場合、Windows OSのバージョンアップによってOpenSSHに関するセキュリティ強化がなされたためにシャットダウンが実行されない不具合。(暫定対策として、Windows側の「sshd_config」ファイルを管理者権限で編集し、次の2行を追記することで回避できます。「HostkeyAlgorithms +ssh-rsa」「Macs +hmac-sha1」)
- ・イベントログが1000件を超えた状態で「データログスタート」が発生した場合 (ColdStart後やWarmStart後など)、CLIにてlogコマンドを実行すると、上記の「データログスタート」以降のログしか表示されない不具合。(WEB GUIの「イベントログ」では、それ以前も含めて1000件分のログを確認できます。)

《4.30Aで既に修正された不具合》

- ・HTTPタイムアウト時間の初期化不具合。

《4.00Aで既に修正された不具合》

- ・メール制御結果通知メールがログ通知メールと同時に送信される時、(制御に使用されたメールアドレスではなく)「アドレス1」に設定されているメールアドレスに結果通知メールが届く不具合。
- ・「PCのER信号との連携」(WEB上の項目にはない)を「有効」にした状態で接点入力ONになっていると、UPS連動を有効にしても停電信号を受けてのアウトレットOFFが機能しない不具合。
- ・接点出力状態変化のメール通知有効時、「接点出力名」と「接点出力OFF時メッセージ」(または「接点出力ON時メッセージ」)の合計が半角33字以上に設定していると、通知メールの件名が空白になってしまう不具合。
- ・接点入力状態変化のメール通知有効時かつ接点入力が「レベル」設定時、「メール設定」-「送信条件フラグ」-「接点入力状態変化通知」の設定が効かず、常に通知が届く不具合。(「パルス」設定の時には不具合はありません)
- ・NTPサーバーにホスト名で設定して運用している時、名前解決の際に複数のIPアドレスが知らされた場合、先頭のIPアドレスと紐付けされる。そこで、リブーターと相性が悪く、時刻同期が行えないIPアドレスと紐付けされてしまった場合、「NTPサーバー接続エラー」とログ表示され、またその後も時刻同期できない状態が持続する。(ログ表示は初回のみ。この状態が続く限り、NTP関連のログはその後出てこない。)
- ・SNMPのTRAP送信有効時、温度監視による電源制御発生時には「schedule(2)」と表示され、またスケジュールによる電源制御発生時には「temperature(3)」と表示されてしまう不具合。
- ・本機に電源投入後、一度もWarm Start[本体RESETボタンを押す、またはWEB画面で「CPUリセット」を実行する]をかけない状態で、SSHシャットダウンを実行し、その実行中にWEBブラウザで画面更新などを行うことでWarm Startが発生した場合、全アウトレットの電源状態がOFFになってしまう。

《SSHシャットダウン対応版FW : 1.01Sで既に修正された不具合》

- ・SSHシャットダウン中にWEB画面の自動更新が発生すると、WEB画面の一部が表示されず自動的に回復もできないため、最新の電源状態などが確認できない状態になる。
- ・SSHシャットダウン中にWEB画面のボタンをクリックするなど操作を行うと、Warm Startが発生することがある。
- ・SSHシャットダウン中にWarm Startが発生した場合、その発生タイミングによっては対象PCがシャットダウンされていないにもかかわらず、該当のアウトレットの電源状態がOFFになってしまうことがある。

《1.00Eで既に修正された不具合》

- ・温度が-0.01℃～-0.99℃のとき、表示される数値がマイナスではなくプラスになる不具合。
- ・温度監視の通知メールでマイナスの温度を表示する際、「-x.-xx℃」のように小数点の右横にも「-」が表示される不具合。
- ・デジチェーン無効時、8回時刻指定（NTPサーバーによる時刻同期、PCとの時刻同期指定、シリアルやTELNETでのDATE/TIMEコマンド）が実行されるとリンクダウンが起こる不具合
- ・停電回復時イベントログの不具合

《1.00Cで既に修正された不具合》

- ・SSHにおいてadmin権限、supervisor権限に同一のIDが設定できてしまう不具合
- ・「ネットワーク設定-メール設定」において「再接続時間」の単位、×(分)→○(秒)
- ・「詳細状態表示-監視状態」において「アウトレット8-対象1-無応答」の部分に「アウトレット4-対象1-無応答」の数値が表示されていた不具合

【POSE】

型番：SE10-8A7B1 最新FW：1.30B.250626

《1.30A,1.30Bで未修正の既知の不具合》

- ・WindowsPCに対してSSHシャットダウンを実行する場合、Windows OSのバージョンアップによってOpenSSHに関するセキュリティ強化がなされたためにシャットダウンが実行されない不具合。（暫定対策として、Windows側の「sshd_config」ファイルを管理者権限で編集し、次の2行を追記することで回避できます。「HostkeyAlgorithms +ssh-rsa」「Macs +hmac-sha1」）
- ・接点情報延長機能を使用している場合に、子機側のPOSEで状態通知としてSyslogを選択していると、無通信タイマーでのタイムアウト発生時[親機との通信が切断された時]にWarmStartが発生する不具合。
- ・イベントログが1000件を超えた状態で「データログスタート」が発生した場合（ColdStart後やWarmStart後など）、CLIにてlogコマンドを実行すると、上記の「データログスタート」以降のログしか表示されない不具合。（WEB GUIの「イベントログ」では、それ以前も含めて1000件分のログを確認できます。）

《1.30Bで既に修正された不具合》

- ・カンマ（,）が含まれているシャットダウンスクリプトをロードしてCPUリセットすると、カンマ以降のスクリプトが消える不具合。
- ・NTPサーバー同期間隔を3580(×10分)以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合。
(1.20A以前のFWではこの不具合は生じません)

《1.30Aで既に修正された不具合》

- ・TELNETにて変数「debTcpInactiveTimer」にマイナス数値が設定できてしまう不具合。
- ・接点情報延長モードにおいて、親機単体としては接点入力を「パルス」設定にしているも、連動する子機へは「レベル」として通知し作動する不具合。
- ・NTPサーバーにホスト名で設定して運用している時、名前解決の際に複数のIPアドレスが知らされた場合、先頭のIPアドレスと紐付けされる。そこで、リブーターと相性が悪く、時刻同期が行えないIPアドレスと紐付けされてしまった場合、「NTPサーバー接続エラー」とログ表示され、またその後も時刻同期できない状態が持続する。（ログ表示は初回のみ。この状態が続く

限り、NTP関連のログはその後出てこない。)

・ダイレクトWEBコマンドでPOSコマンド実行後、HTML形式では正しく結果表示されない不具合。

《1.20Aで既に修正された不具合》

- ・メール通知で「タイトル」に「イベント内容」を設定した場合に、通知の内容によってはCPUリセットがかかりメールが送信されない不具合。
- ・イベントログにて「死活判定(無動作)」が表示されない不具合。
- ・子機→親機の接点情報延長機能有効時に、親機-子機間の通信に切断があり、その最中に子機の接点入力状態が複数回変化した場合、通信回復時に最初の変化のみ親機に送信され、2回目以降の変化が送信されない不具合。
- ・接点情報延長モードで動作しているとき、遠隔接点出力をOFFにすると（子機から親機の接点出力をコマンドでOFFにする）、メール通知の「イベント内容」が接点出力ONではなく接点入力OFFのものになっている不具合。
- ・接点情報延長モードで動作しているときのイベントログで「他局切断」で記録されるIPアドレス表示の不具合。
- ・接点情報延長モードで動作しているときのイベントログで、親機/子機間の死活監視が「無効」に設定されていると、親機/子機間の通信が接続されたとき子機に「接続」のログが記録されない不具合
- ・PING送信画面で、測定先アドレスを指定しないままPING確認を行うとエラー終了せず「測定中」のままになる不具合。

《1.10Aで既に修正された不具合》

- ・「イベントログ」でのMSOFのログ表示不具合。
- ・「設置場所」の末尾に、SHIFT-JISで下位バイトが0x40の文字(例:機,院,邸,宗,①,' '[全角スペース]など)を入れると文字化けする不具合
- ・モバイルルーターなどでDHCPによるアドレス取得不具合

【REBOOTER】

型番：RPC-2NC

最新FW：4.30C.251022

《未修正の既知の不具合》

- ・HB監視においてポート変更などの設定変更を行った後、CPUリセットが必要であるにもかかわらず、画面上にその注意表示が出てこない不具合。（HB監視の各種設定変更後は必ずCPUリセットを行ってください。）
- ・Ping監視において監視先にIPアドレス設定時、「適用」後またCPUリセット後、そして本装置起動後「Ping送信間隔(秒)」を待たずして初回のICMP発出してしまう。（詳細取説の図との差異）（名前アドレス設定時は、詳細取説の図のとおりとなります。）

《4.30Cで既に修正された不具合》

- ・[既に修正された不具合とは別ケースで]本機に電源投入後、Webアクセスができない状態になることがある。（RESETボタン押下によって復帰する。この状態に陥らないようにするのに「NTPサーバーを設定しておく」「メール受信設定をしておく」などリブーターから外部に通信を行う設定をしておくのが暫定的対策となります。）
- ・機器起動時（リンク確立時）のタイミングにより、送信パケットの一部が送信されない場合がある不具合。

《4.30Bで既に修正された不具合》

- ・本機に電源を投入した際に、ごくまれに通信ができない場合や、アウトレットの出力が行われない場合がある不具合。

《4.30Aで既に修正された不具合》

- ・カンマ(,)が含まれているシャットダウンスクリプトをロードしてCPUリセットすると、カンマ以降のスクリプトが消える不具合。
- ・NTPサーバー同期間隔を3580(×10分)以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合。
- ・Ping監視の宛先に名前アドレスが設定されている時に、DNS名前解決失敗でIPアドレス取得できなかった場合Ping監視

無応答回数がカウントアップされない不具合。【この不具合は変数デフォルト値の変更によって修正されています。そのため4.20D以前のファームウェアからバージョンアップしても、変数の設定値自体は変更されない仕様のため、初期化を推奨しています。設置や運用環境ゆえに初期化が難しい場合、CLIにて変数debOINoEchoIntervalの設定値を9に変更し、CPUリセットをかけることで改善されます。】

《4.20Dで既に修正された不具合》

- ・特定の環境下で現象として表出するTCP通信の不具合。（TCP通信において特定のタイミングでRSTパケットを受信したときにWEBアクセスからログアウトする。Microsoft Edgeの「IEモード」を使用してWEBアクセスするとCPUリセット発生する。TCP通信のウィンドウサイズが20KB未満に設定されたPCからWEBアクセスできない。）

【REBOOTER】

型番：RPC-5NC

最新FW：4.30C.251022

《未修正の既知の不具合》

- ・HB監視においてポート変更などの設定変更を行った後、CPUリセットが必要であるにもかかわらず、画面上にその注意表示が出てこない不具合。（HB監視の各種設定変更後は必ずCPUリセットを行ってください。）
- ・Ping監視において監視先にIPアドレス設定時、「適用」後またCPUリセット後、そして本装置起動後「Ping送信間隔(秒)」を待たずして初回のICMP発出してしまう。（詳細取説の図との差異）（名前アドレス設定時は、詳細取説の図のとおりとなります。）

《4.30Cで既に修正された不具合》

- ・[既に修正された不具合とは別ケースで]本機に電源投入後、Webアクセスができない状態になることがある。（RESETボタン押下によって復帰する。この状態に陥らないようにするのに「NTPサーバーを設定しておく」「メール受信設定をしておく」などリブーターから外部に通信を行う設定をしておくのが暫定的対策となります。）
- ・機器起動時（リンク確立時）のタイミングにより、送信パケットの一部が送信されない場合がある不具合。

《4.30Bで既に修正された不具合》

- ・本機に電源を投入した際に、ごくまれに通信ができない場合や、アウトレットの出力が行われない場合がある不具合。

《4.30Aで既に修正された不具合》

- ・カンマ（,）が含まれているシャットダウンスクリプトをロードしてCPUリセットすると、カンマ以降のスクリプトが消える不具合。
- ・NTPサーバー同期間隔を3580(×10分)以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合。
- ・Ping監視の宛先に名前アドレスが設定されている時に、DNS名前解決失敗でIPアドレス取得できなかった場合Ping監視無応答回数がカウントアップされない不具合。【この不具合は変数デフォルト値の変更によって修正されています。そのため4.20D以前のファームウェアからバージョンアップしても、変数の設定値自体は変更されない仕様のため、初期化を推奨しています。設置や運用環境ゆえに初期化が難しい場合、CLIにて変数debOINoEchoIntervalの設定値を9に変更し、CPUリセットをかけることで改善されます。】

《4.20Dで既に修正された不具合》

- ・特定の環境下で現象として表出するTCP通信の不具合。（TCP通信において特定のタイミングでRSTパケットを受信したときにWEBアクセスからログアウトする。Microsoft Edgeの「IEモード」を使用してWEBアクセスするとCPUリセット発生する。TCP通信のウィンドウサイズが20KB未満に設定されたPCからWEBアクセスできない。）

《4.10Aで既に修正された不具合》

- ・SNMP TRAPにて、Port監視「正常/回復中」が表示できなかった不具合。
- ・「詳細状態表示」-「その他詳細」-「Port監視状態」にて「無効」に負の数が表示されることがある不具合。

《未修正の既知の不具合》

- ・ログイン操作直後、簡易状態表示画面が表示される前にWebアクセスが切断され、CPUリセットがかかってしまう場合がある不具合。
- ・マルチキャストパケットが10msec間隔で発出されるようなネット環境下で使用したときにCPUリセットがかかってしまう場合がある不具合。（100msec間隔程度のネット環境下ではこの事象は弊社確認では発生しませんでした。）
- ・Ping監視において監視先にIPアドレス設定時、「適用」後またCPUリセット後、そして本装置起動後「Ping送信間隔(秒)」を待たずして初回のICMP発出してしまう。（詳細取説の図との差異）（名前アドレス設定時は、詳細取説の図のとおりとなります。）

《4.30Dで既に修正された不具合》

- ・NTPサーバー同期間隔を3580(×10分)以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合。
- ・特定の環境下で現象として表出するTCP通信の不具合。（TCP通信において特定のタイミングでRSTパケットを受信したときにWEBアクセスからログアウトする。Microsoft Edgeの「IEモード」を使用してWEBアクセスするとCPUリセット発生する。）
- ・有効でないSMTP認証方式設定後にメール送信処理を実行して失敗した後、送信リトライ処理を行わなくなる不具合。これに伴い、メール受信処理も行わなくなるため、メール制御も実行されない。
- ・SSHサーバー機能において排他制御が効いていない不具合。（暫定策として、他の通信方式も含めて他のユーザーと同時ログインせずにご使用になる、もしくはSSHサーバー機能を有効にする際「ガードタイム方式」を選択してご使用になるようになさってください。）
- ・HB監視においてポート変更などの設定変更を行った後、CPUリセットが必要であるにもかかわらず、画面上にその注意表示が出てこない不具合。（HB監視の各種設定変更後は必ずCPUリセットを行ってください。）
- ・HB監視において「STB番号」と「電源供給アウトレット番号」が異なる状態で、動作設定を「Reboot」とし、電源供給アウトレットOFF後に全アウトレットONを実行しても、Pause状態が解除されず監視が再開されない不具合。（暫定策として「STB番号」と「電源供給アウトレット番号」を同一番号に設定してご使用ください。）
- ・本機に電源投入後、Webアクセスができない状態になることがある。（RESETボタン押下によって復帰する。この状態に陥らないようにするのに「NTPサーバーを設定しておく」「メール受信設定をしておく」などリブーターから外部に通信を行う設定をしておくのが暫定的対策となります。）
- ・機器起動時（リンク確立時）のタイミングにより、送信パケットの一部が送信されない場合がある不具合。
- ・Ping監視の宛先に名前アドレスが設定されている時に、DNS名前解決失敗でIPアドレス取得できなかった場合Ping監視無応答回数がカウントアップされない不具合。**【この不具合は変数デフォルト値の変更によって修正されています。そのため4.20Bのファームウェアからバージョンアップしても、変数の設定値自体は変更されない仕様のため、初期化を推奨しています。設置や運用環境ゆえに初期化が難しい場合、CLIにて変数debOINoEchoIntervalの設定値を9に変更し、CPUリセットをかけることで改善されます。】**

《4.20Bで既に修正された不具合》

- ・カンマ（,）が含まれているシャットダウンスクリプトをロードしてCPUリセットすると、カンマ以降のスクリプトが消える不具合。

《未修正の既知の不具合》

- ・ログイン操作直後、簡易状態表示画面が表示される前にWebアクセスが切断され、CPUリセットがかかってしまう場合がある不具合。
- ・マルチキャストパケットが10msec間隔で発出されるようなネット環境下で使用したときにCPUリセットがかかってしまう場合がある不具合。(100msec間隔程度のネット環境下ではこの事象は弊社確認では発生しませんでした。)
- ・Ping監視において監視先にIPアドレス設定時、「適用」後またCPUリセット後、そして本装置起動後「Ping送信間隔(秒)」を待たずして初回のICMP発出してしまう。(詳細取説の図との差異) (名前アドレス設定時は、詳細取説の図のとおりとなります。)

《4.30Dで既に修正された不具合》

- ・NTPサーバー同期間隔を3580(×10分)以上に設定すると、数秒おきにNTPサーバーへの接続が行われる不具合。
- ・特定の環境下で現象として表出するTCP通信の不具合。(TCP通信において特定のタイミングでRSTパケットを受信したときにWEBアクセスからログアウトする。Microsoft Edgeの「IEモード」を使用してWEBアクセスするとCPUリセット発生する。)
- ・有効でないSMTP認証方式設定後にメール送信処理を実行して失敗した後、送信リトライ処理を行わなくなる不具合。これに伴い、メール受信処理も行わなくなるため、メール制御も実行されない。
- ・SSHサーバー機能において排他制御が効いていない不具合。(暫定策として、他の通信方式も含めて他のユーザーと同時にログインせずにご使用になる、もしくはSSHサーバー機能を有効にする際「ガードタイム方式」を選択してご使用になるようになさってください。)
- ・PING監視にて、送信間隔を設定可能数値に近い値に設定すると無応答がカウントされない不具合。
- ・HB監視においてポート変更などの設定変更を行った後、CPUリセットが必要であるにもかかわらず、画面上にその注意表示が出てこない不具合。(HB監視の各種設定変更後は必ずCPUリセットを行ってください。)
- ・本機に電源投入後、Webアクセスができない状態になることがある。(RESETボタン押下によって復帰する。この状態に陥らないようにするのに「NTPサーバーを設定しておく」「メール受信設定をしておく」などリブーターから外部に通信を行う設定をしておくのが暫定的対策となります。)
- ・機器起動時(リンク確立時)のタイミングにより、送信パケットの一部が送信されない場合がある不具合。
- ・Ping監視の宛先に名前アドレスが設定されている時に、DNS名前解決失敗でIPアドレス取得できなかった場合Ping監視無応答回数がカウントアップされない不具合。**【この不具合は変数デフォルト値の変更によって修正されています。そのため4.20Bのファームウェアからバージョンアップしても、変数の設定値自体は変更されない仕様のため、初期化を推奨しています。設置や運用環境ゆえに初期化が難しい場合、CLIにて変数debOINoEchoIntervalの設定値を9に変更し、CPUリセットをかけることで改善されます。】**

《4.20Bで既に修正された不具合》

- ・カンマ(,)が含まれているシャットダウンスクリプトをロードしてCPUリセットすると、カンマ以降のスクリプトが消える不具合。

【REBOOTER】

型番：RPC-4NCL

最新FW：4.30D.250225

《未修正の既知の不具合》

- ・ログイン操作直後、簡易状態表示画面が表示される前にWebアクセスが切断され、CPUリセットがかかってしまう場合がある不具合。
- ・マルチキャストパケットが10msec間隔で発出されるようなネット環境下で使用したときにCPUリセットがかかってしまう場合がある不具合。(100msec間隔程度のネット環境下ではこの事象は弊社確認では発生しませんでした。)
- ・Ping監視において監視先にIPアドレス設定時、「適用」後またCPUリセット後、そして本装置起動後「Ping送信間隔(秒)」を待たずして初回のICMP発出してしまう。(詳細取説の図との差異) (名前アドレス設定時は、詳細取説の図のとおりと

なります。)

《4.30Dで既に修正された不具合》

- ・特定の環境下で現象として表出するTCP通信の不具合。(TCP通信において特定のタイミングでRSTパケットを受信したときにWEBアクセスからログアウトする。Microsoft Edgeの「IEモード」を使用してWEBアクセスするとCPUリセット発生する。)
- ・有効でないSMTP認証方式設定後にメール送信処理を実行して失敗した後、送信リトライ処理を行わなくなる不具合。これに伴い、メール受信処理も行わなくなるため、メール制御も実行されない。
- ・SSHサーバー機能において排他制御が効いていない不具合。(暫定策として、他の通信方式も含めて他のユーザーと同時にログインせずにご使用になる、もしくはSSHサーバー機能を有効にする際「ガードタイム方式」を選択してご使用になるようになさってください。)
- ・HB監視においてポート変更などの設定変更を行った後、CPUリセットが必要であるにもかかわらず、画面上にその注意表示が出てこない不具合。(HB監視の各種設定変更後は必ずCPUリセットを行ってください。)
- ・HB監視において「STB番号」と「電源供給アウトレット番号」が異なる状態で、動作設定を「Reboot」とし、電源供給アウトレットOFF後に全アウトレットONを実行しても、Pause状態が解除されず監視が再開されない不具合。(暫定策として「STB番号」と「電源供給アウトレット番号」を同一番号に設定してご使用ください。)
- ・本機に電源投入後、Webアクセスができない状態になることがある。(RESETボタン押下によって復帰する。この状態に陥らないようにするのに「NTPサーバーを設定しておく」「メール受信設定をしておく」などブーターから外部に通信を行う設定をしておくのが暫定的対策となります。)
- ・機器起動時(リンク確立時)のタイミングにより、送信パケットの一部が送信されない場合がある不具合。
- ・Ping監視の宛先に名前アドレスが設定されている時に、DNS名前解決失敗でIPアドレス取得できなかった場合Ping監視無応答回数がカウントアップされない不具合。**【この不具合は変数デフォルト値の変更によって修正されています。そのため4.20Bのファームウェアからバージョンアップしても、変数の設定値自体は変更されない仕様のため、初期化を推奨しています。設置や運用環境ゆえに初期化が難しい場合、CLIにて変数debOlNoEchoIntervalの設定値を9に変更し、CPUリセットをかけることで改善されます。】**

【REBOOTER】

型番 : RSC-4NC-MT 最新FW : 4.30E.260204

《未修正の既知の不具合》

- ・SNMPにおいて、以下のMIB項目でIndex5-8に対してSETリクエストにて設定ができず、またはGETリクエストを実行した際、Index1の値が返される不具合。(暫定策として、下記項目の設定値確認、変更はWEB画面メニューから行ってください。)
 - 「ctrlMonNvOutLinkOutlet」
 - 「ctrlMonSrHbCondPort1Assign」
 - 「ctrlMonSrHbCondPort2Assign」
 - 「ctrlMonSrHbCondPort3Assign」
 - 「ctrlMonSrHbCondPort4Assign」
- ・スケジュール配置にて、全曜日にスケジュールを設定した状態で、スケジュールリストを20個登録し、適用保存すると、日曜日に設定したスケジュールが削除されてしまう不具合。(暫定策としてこの状態から再度曜日の追加ボタンを押し、適用保存すると、日曜日のスケジュールが復活します。)
- ・ログイン操作直後、簡易状態表示画面が表示される前にWebアクセスが切断され、CPUリセットがかかってしまう場合がある不具合。
- ・マルチキャストパケットが10msec間隔で発出されるようなネット環境下で使用したときにCPUリセットがかかってしまう場合がある不具合。(100msec間隔程度のネット環境下ではこの事象は弊社確認では発生しませんでした。)

- ・Ping監視において監視先にIPアドレス設定時、「適用」後またCPUリセット後、そして本装置起動後「Ping送信間隔(秒)」を待たずして初回のICMP発出してしまふ。(詳細取説の図との差異) (名前アドレス設定時は、詳細取説の図のとおりとなります。)
- ・イベントログが1000件を超えた状態で「データログスタート」が発生した場合 (ColdStart後やWarmStart後など)、CLIにてlogコマンドを実行すると、上記の「データログスタート」以降のログしか表示されない不具合。(WEB GUIの「イベントログ」では、それ以前も含めて1000件分のログを確認できます。)
- ・定時メール設定を有効にした状態で送信フラグ条件にF3 (スケジュール) にチェックを入れなかった場合、メールが届かないにも関わらず、イベントログ上では「定時メール発報」と記録されてしまふ不具合。

《4.30Eで既に修正された不具合》

- ・年をまたいだ際に、スケジュールが前年同月のスケジュールで動作する不具合。(暫定策として、一度CPUリセットを行ってください。)
- ・Ping監視の動作設定が「ON追従」「OFF追従」であり、接点出力連動設定にて「死活監視に連動」設定がなされているときに、追従して接点出力状態が変化しない不具合。

《4.30Dで既に修正された不具合》

- ・機器起動時にまれに通信ができなくなる不具合。
- ・[前項とは別ケース]本機に電源投入後、Webアクセスができない状態になることがある。(RESETボタン押下によって復帰する。この状態に陥らないようにするのに「NTPサーバーを設定しておく」「メール受信設定をしておく」などリブーターから外部に通信を行う設定をしておくのが暫定的対策となります。)
- ・機器起動時 (リンク確立時) のタイミングにより、送信パケットの一部が送信されない場合がある不具合。

《4.30Cで既に修正された不具合》

- ・接点入力で「ノーマル・パルス・トグル」設定時、入力LOWの状態でCPURESETすると、WEB上は「ON」、SSIコマンド「ON」となるが、LEDが消灯する。また「リバース・パルス・トグル」設定時、入力HIGHの状態でCPURESETすると、WEB上は「ON」、SSIコマンド「ON_R」となるが、LEDが消灯する不具合。
【この状態のときに一度でも接点入力パルス信号を送ればLEDの状態も正常化します。暫定的措置として、CPUリセット後、パルス信号を一度送信して正常化させてからご使用ください。なお、本機主電源投入後[ColdStart後]はこの事象は発生しません。】
- ・スケジュール設定の休日テーブル設定にて、8/11「山の日」が祝日として反映されていない不具合。(暫定策として8/11のみ休日指定として追加し、スケジュール設定をなさってください。)
- ・SNMP(v1,v3)による接点出力制御ができない。
- ・RSC-MT4HSで作成した「全スケジュールデータ」・「全パターンデータ」を流し込んでも正しく反映されない。(RSC-MT4HSでの「全カレンダーデータ」が流し込めないのは仕様です。)

FW:4.30C以降は、スケジュールデータ・パターンデータはRSC-MT4HSと同じ形式に変更しました。そのため、FW:4.30Bのスケジュールデータ・パターンデータだけが異なる形式 (読み込むとずれて認識されてしまう) となっています。FW:4.30Bでご利用になっていた方は【FW:4.30C以降にバージョンアップしてから】これらのデータを抽出するようになさってください。

以上
明京電機株式会社